

# 鹿大留学生ら支援訴え

地<sup>ネパール</sup>震 母国へ義援金100万円

鹿児島大学（鹿児島市）のネパール人留学生が母国の地震被災者への支援を呼びかけ、同大の教職員や学生らが協力して約100万円を集めた。28日、同大で義援金目録を受け取った医歯学総合研究科博士課程4年のビベック・アリアルさん（31）は「支援が行き届かない人たちにとって大きな力になる」と話した。



義援金を受け取るビベック・アリアルさん（中央）とマノズ・ボハラさん（右）＝28日、鹿児島市の鹿児島大学

アリアルさんと同研究科特任研究員のマノズ・ボハラさん（31）が大学側に支援を相談。

同大有志が5月上旬から義援金を募り、100万720円が集まった。ネパール首相災害

救済基金や日本赤十字社など3団体を通じて現地に贈られる。

脳外科医のボハラさんは地震1週間後、家族の暮らす首都カトマンズに戻り、現地の病院で1週間働いた。「体と心のリハビリが必要。1カ月後にモンスーンが迫っている。被災者の住む場所の確保を急ぐべきだ」

アリアルさんは「日本からの気持ちに感謝している。義援金は壊れた建物や学校の修復、傷ついた人や子どもへの支援に使ってもらえるようにしたい」と話した。（福留梓）